

EVOLUTION

Company Newsletter

vol. 22

2026.Mar

ひとりと向きあう。

社会福祉法人
iK 溪仁会

かけがえのない仲間と、共に描く未来。

外国籍スタッフ待望の

“介護福祉士”

国家試験合格！

特集

未来プロジェクト

地域を俯瞰する「高い視座」で次代を拓く

“あたりまえ”のレベルを

CONTENT

- 認知症ケアリーダー活動報告レポート
 - staff interview
 - 永年勤続表彰/recruit/topmanagement
- 表紙：マイナビイベントリーフレット

MIRAI PROJECT

地域は、静かに、確実に変わり続けています。
その変化に、私たちは本気で向き合っているだろうか。



法人未来
プロジェクト

「高い視座」で次代を拓く
地域を俯瞰する



2026年2月19日（木）、第12回「法人未来プロジェクト」が開催されました。これまで各拠点で地域課題や人口動態、団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題など、様々な分析をしてきました。今回は、そこから導きだされた今後求められるニーズ、未来を捉えた成果が発表されました。

■ 私たちが果たすべき役割とは？

2040年、社会構造は劇的に変化し、今の「当たり前」は通用しなくなります。今回のプロジェクトで示されたのは、私たちが「現状の枠組みそのものを新しく創り変える」覚悟が問われるものでした。

行政の動きを待つのではなく、先取りすること。「介護」というカテゴリーに閉じこめるのではなく、都市構想や地域の動態データを読み解くこと。

私たちが目指すのは、単なる介護施設の運営ではありません。地域を支える「多機能なハブ」へと、自らを進化させることです。

■ その「誰か」に、私たちの手は届いているか。

全拠点の発表ごと、理事長から直々のフィードバックは大所高所から俯瞰する視点の「期待」のエール。「広い視野」で「高い視座」で、目的達成に向けて、前進するための思考のプロセスは、貴重な学びの機会となりました。

「地域のハブ」として機能する。その真意は、経営戦略の先にある「地域に対する真摯な想い」にあります。地域で困っていても声を上げられない人々がいるかもしれない。私たちのサービスが必要な「声なき声」に気づくために。

■ 「ひとりと向きあう。」という約束。

その「ひとり」は、まだ出会っていない、地域で立ちすくんでいる人かもしれません。15年後、この町はどうなっているか。そこでの困りごとには、どのようなサービスが必要だろうか。その想像力が、私たちの取組みを「設計」するエネルギーになります。

「ビジョン福祉45」から、50周年という次代へ。私たちの探究と実践は、ここからさらに加速していきます。



この日は、前夜からの大雪で交通網が止まるほどの状況の中、市外から駆けつけるのは並大抵のことではなかったはずですが、皆さま、本当にお疲れさまでした！

参加できなかったブロックの皆さまも、次回は全ブロックが揃って開催できることを願っています！いよいよ最終年度！プレゼンテーションを楽しみにしています！

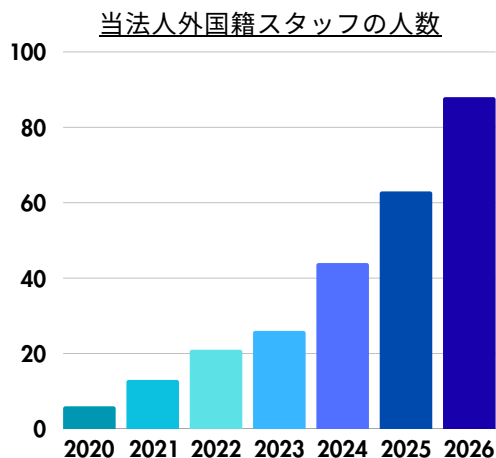


CONGRATULATIONS!

かけがえのない仲間と共に描く未来。
 外国籍スタッフ待望の **≧介護福祉士≦** 国家試験合格！

外国籍スタッフが初めて仲間入りしてくれたのは、2020年4月。早いもので、今年で6年目を迎えました。ご利用者を敬い、真摯に向きあうその姿勢は、ご利用者の方からも慕われ、私たち職員にとっても大きな刺激となっています。現在では88名もの外国籍スタッフは、欠かすことのできない大きな力です。

そしてこの春、当法人初となる外国籍の「介護福祉士」国家試験に2名合格されました！
 「ともに学び、ともに成長する仲間として」心よりお祝い申し上げます！本当におめでとうございませす！！



スモンタントさん
 きもべつ喜らめきの郷
 5年目



エイケイティさん
 きもべつ喜らめきの郷
 3年目

2025年度 認知症ケアリーダー 活動振り返りレポート

2025.11.28

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室池田先生による
「レビー小体型認知症と前頭側頭型認知症」研修会

2024年度に始動した、全法人を挙げた「認知症ケアリーダー」育成の取り組み。2年目の今年度は、25事業所・32名のリーダーたちが選出されました。

私たちの目的は、もちろん認知症ケアの質の向上です。ケアの質を高めることで、その方の「生活」と「人生」の質を上げることにつながります。それが、専門職として私たちに求められている使命です。

3か年計画の中間地点である今年度は、昨年度の「パーソン・センタード・ケア」を中心とした理念の上に「知識」という確かな柱を立てる1年でした。認知症基本法でもキーワードとなる「尊厳」「人権」を尊重したケアに繋がる「意思決定支援」や認知症の病型に関する知識を深めました。特に、大阪大学の池田学氏を迎えた研修では、ディスカッションを通じて多くの学びを得ました。

また、グループワークや「ひとときシート」を活用した情報共有により、現場での意識改革が進んでいます。

2026年度は締めくくりの年として「技術」の習得をすすめ、各事業所で水平展開することで、法人全体のケアの質を向上させます。

将来的には、地域への貢献を通じて、「共生社会」の実現に寄与できる法人になることを目指していきたいと考えています。

これまでの2年の学びで、ケアリーダー自身の気持ちの変化とともに、それが行動の変容になっていることがアンケートからわかり喜びを感じています。そして、それをケアリーダー自身が楽しんでいるようにも見え、それがさらに嬉しいです。同じ思いや熱を持った仲間ができたことで、さらに前進しているのではないのでしょうか。

今後は、ともすれば、現場で「大変だ」「困った」「嫌だ」というマイナスイメージの認知症ケアを、態度・知識・技術を兼ね揃えたケアリーダーが「嬉しい」「楽しい」「もっと」と思わせるケアで、火付け役となって周りを巻き込んでいく、そんな輝く存在になってもらいたいと思います。

まさに「ひとりと向きあう。」それを体現できる法人として、ケアリーダーが中心となり現場で活躍してくれることを期待しています。



事業推進部 介護課
担当課長 二瓶むつみ

2025年度
認知症ケアリーダー
会議・研修



5/31-6/1
認知症ケア学会大会

5/26
第1回会議



「基本法を聞くたびに、気持ち
が改まる。ミニ勉強会で事業所
内にも共有した。」



「小さな意思決定の積み重ねが
大きな意思決定に繋がると学び、
考え方がガラリと変わった。」

7/17
意思決定支援
研修会



8/28
第2回会議



「多数で取り組むと自分には
見えないものが見えた。来年
度は自施設で活用したい。」



2025年度 認知症ケアリーダー 活動振り返りアンケート

一年間の活動を通して、どう意識が変わったか、どう行動が変わったか、どんな課題を感じているか、アンケート回答を一部ご紹介します。ぜひ、事業所でも話題にしていただけると嬉しいです！



Q 認知症ケアへの想いの変化

学習を通じて認知症ケアの奥深さを再認識した！



自分の知識を深めるだけでなく、いかにスタッフに伝え、事業所や法人全体で共有し、チームケアの向上につなげるかを考えるようになった。



自己決定の支援を実践できるスタッフを育成したいと強く考えるようになった

Q 事業所での自分の認知症ケアの変化や具体的な実践

伺いをたてる、選択肢を提示する、うそを言わない！を意識するようになった。



水分提供時などメニューを提示し、選んでもらうようになった。

対応が重なった場合など、やむを得ず相手を待たせてしまう場面において、これまでは「待っててください」と一方的に伝えてしまうことがあった。現在は、できるだけ待ってもらい理由を添えて説明し、相手が気持ちよく生活できるよう配慮することを意識している。学習を通じて「記憶の障害」と「感情の障害」は別であり、嫌な感情が記憶として残りやすい、という点を学んだことがあると考えている。

Q 1年の活動を通じて感じたこと

専門的な知識が深まった。他事業所の交流や意見交換をできたことが刺激になった！



学んだことをわかりやすくスタッフに伝え、実際にケアに落とし込むのはまだ課題がある！



「医療的側面から認知症を考えるきっかけに。貴重な講義だった。」

11/28
レビー小体型認知症と前頭側頭型認知症
研修会



2/12
第3回会議

他事業所の課題に共感し「自分だけじゃない。」と日々の頑張りにつながった。



ケアリーダーたちが、自事業所で勉強会を行う予定です！その際は、取材に伺いたいと思いますので、本部中谷までぜひ、お声掛けください！

次年度の認知症ケア学会は東京です！皆さんが学ばれたことをぜひシェアしてくださいと嬉しいです！



MY LOG。

～介護福祉士～



「支える」だけじゃない。
共に歩むなかで、ありたい
自分になれた。

M.Sさん（入職15年目／介護老人福祉施設菊水こまちの郷勤務）

■ 不安に寄り添ったかったあの日から

きっかけは、認知症の祖母と過ごした中学生の頃。「もし専門的な知識があれば、何かしてあげられたのかな」。そう思い、介護の道へ進みました。実習先でスタッフの方々の姿勢に触れ、「私もこうなりたい」と決意しました。

■ 誠実さが、一番の技術になる

大切にしているのは、ご利用者にも自分にも「変わらない自分でいること」。人生経験豊かなご利用者は、こちらの迷いや心の乱れをすぐに見抜かれます。だからこそ、自分の状態に左右されず、常に一定の自分であり続ける。最初から完璧ではありませんでしたが、周囲の支えやご利用者の一言に、私の方が救われてきました。

■ 一人で抱え込まず、みんなで越えていく

介護は「きつい」と言われることもありますが

決して一人で頑張る仕事ではありません。仲間と、そしてご利用者と共に困難を乗り越えていく仕事だと思います。支えているようで、実は支えられている仕事なんだと実感しています。

■ ライフステージが変わっても、プロでいられる

新卒で入職し、2度の育休を取得しました。妊娠中も復帰後も、法人や周囲が働き方を配慮してくれたおかげで、無理なくキャリアを重ねられています。そして周りの力を借りながら、理想の自分へと成長させていただきました。

■ まずは、私たちの「空気」に触れてほしい

向いているかわからない、続けられるか不安。そう思うのは当然です。だからこそ、一度現場を見に来てください。言葉では伝わらない「心地よさ」や、あなたに合う場所が、きっと見つかるはずです。

MY LOG。

～社会福祉士～



介護は、未来を切り拓く「最前線の仕事」。接客の経験も、すべてが武器になる。

S.Sさん (入職6年目/ケアハウスカームヒル西円山勤務)

■ **接客の楽しさを知り、一度は異業種へ**
社会福祉士を目指し進学しましたが、4年間のアルバイトで「接客」の魅力に開眼。卒業後は家電量販店へ就職し、営業・販売で力を磨きました。

■ **自分を最も活かせる「高齢者福祉」へ**
数年後、改めて福祉の道へ。異業種を経験したからこそ、自分のスキルと性格を一番活かせるのは高齢者福祉だと確信しました。

■ **介護職として過ごした4年間で、今の基盤**
介護職としてスタートし、医療知識や観察力の大切さを肌で感じました。特に忘れられないのは、お看取りが近いご利用者の誕生日前夜のことです。「何かできることはないか」と業務の合間に居室の飾り付けをしたところ、翌日駆けつけたご家族が本当に喜んでくださって。後日

写真を見せに来てくださり、その時の感謝の言葉は今も強く心に残っています。

■ **学び続けることで、役割は広がっていく**
現場で働きながら介護福祉士を取得し、現在は相談職1年目。希望に沿ったキャリアアップの機会をいただきました。介護職としての経験があるからこそ、ご家族や地域の方々とも同じ目線で提案ができると思いますが、もっと学びを深めたいと思っています。

■ **これからの社会に、最も必要とされるプロへ**
介護は、高齢化社会において最も必要とされる「最前線の仕事」であり、相手の心に深く触れる「究極の接客業」です。一人ひとりの人生に深く関わり、その方の明日を支える手応えは、他では決して味わえません。ぜひこの世界にチャレンジしてほしいです。

永年勤続表彰

年明け早々の1月8日（木）、溪仁会本部ビルにて永年勤続表彰式と新年交礼会が開催されました。受賞者代表挨拶には「手稲つむぎの杜」菊地施設長が登壇。役職者より花束も贈呈されました。長年にわたり法人を支え尽力されてきた受賞者の皆さま、本当におめでとうございます！



recruit



2026.3.15（日）「マイナビ就職セミナー福祉介護」に2名の職員にご協力いただきました！S相談員はリーフレット表紙や当日のパネルディスカッションにも登壇していただきました！

今後は、見学会やインターンシップ・実習がはじまります！皆さま、学生の皆さんをどうぞよろしくお願いたします！

Top management

2026.3.13（金）トップマネジメント研修が開催され経営管理部門長と広報担当者が揃って参加しました。現場から経営層までが一体となり、自分たちの手で魅力をカタチにしていく。そんなワクワクする発信を皆で進めていきましょう！



(前列中央)
国立大学法人北海道国立大学機構
小樽商科大学グローバル戦略推進センター
産学官連携推進部門
副部門長・教授 北川泰治郎様

EDITOR'S NOTE

年度末。いろいろ切り替わるこの季節。個人的にも5年ぶりの運転免許更新で、マイナンバーカードとにらめっこ。暗証番号がわからずコンビニで再発行。なんとか、マイナンバー連携と従来タイプの2枚持ちにできました(;▽;)

いよいよ新年度。これから新たに仲間入りされる皆さんが、新しい風を運んでくれるのを心から楽しみにしています。皆さまの「想い」が伝わる社内報となるよう、より一層、充実した紙面をめざします。ぜひご意見もお待ちしています！

発行：社会福祉法人 溪仁会
発行責任者：法人本部長 辻村 真
所在地：〒064-0823
北海道札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F
TEL：011-640-6767
問い合わせ先：広報担当 中谷



SNSでも施設の様子を紹介しています。ぜひご覧ください！